



今回は 2 月 19 日に行われた SGH 課題研究発表会 (2 年生の部) について報告します。

◇ 本年度の2年生学年テーマは国連のSDG sに基づくグローバルイシューです。

本年度2年生は、各クラス6～8つの班が、グローバルイシューに関する1テーマを選び、昨年11月にクラスごと提案の発表を行いました。その結果、学年代表として選ばれた7つの班は、当日英語で6分程度の発表を行いました。学年全体でも、すべての班が研究テーマを掘り下げるために、夏休みにはフィールドワークに行き、インタビューを行うなど、昨年度学んだ課題解決の方法を自分たちのテーマを追求するために活用してきました。

以下は、クラス代表の発表班による、SGH発表会の振り返りです。

2年1組 Maternity Harassment 「マタニティハラスメント」

私たちのグループはマタニティハラスメントについて研究しました。今日、世界ではマタニティハラスメントによって多くの妊婦の方々が苦しんでいます。そこで、私たちは学校でアンケートを実施し、日本の実情を調べ、世界と比べながら今後どうしたらマタハラ被害が減るのか、どうしたら妊婦さんが生活しやすい社会になるのかという課題を掲げ、活動しました。

研究をする上で苦労したことは、マタハラの実例を集めることや、国内での対策を調べることです。この研究を進めていく上で気づいたことは、妊婦さんと、世の中が良い関係を築いていき、過ごしやすい環境を作るための解決策が、海外では行われているところがあるということです。妊婦さんに対して、社会が今よりも、より柔軟な対応と理解をすることが必要だと学ぶことができました。

そして発表当日では、大勢を前にして英語で発表する機会はなかなかないので、とても貴重な経験となりました。ただ日本語から直訳するのではなく、聞く人側に伝わりやすいように簡単な文で話すようにするなど、授業とは違う側面から英語という言語に触れることが出来ました。



2年2組 No Hunger from the world to Japan 「関係性の飢餓」

(1) 発表内容

私たちは最初、世界の飢餓に目を向けていました。しかし、身近なところにも貧困や飢餓があると知り、子供達にご飯や遊び場を提供している「みんなのお家おだやか荘」という子ども食堂へフィールドワークに行きました。そこで私たちは、現在の日本に「関係性の貧

困」があることを知りました。これは昔の日本には存在しなかった問題です。私たちはこれを深刻に捉えるべきだと思い、「関係性の飢餓」と呼んでいます。

この問題を解決するために学生である私たちには子供達と遊ぶことができます。また、勉強を教えてあげたりすることもできます。みなさんも、この問題を身近に感じるために、自治体などが行なっている活動を知ることから始めて見ませんか？

(2) 気づき・学んだこと

初めアフリカや東南アジアの飢餓を調べていたのですが「子ども食堂」というボランティア活動があると聞き、各務原市にある子ども食堂へフィールドワークに行きました。そこで初めて日本の飢餓と呼ぶべき貧困を知りました。私たちの抱える問題は案外 身近なところにもあると気づかされ、日本の飢餓をメインテーマにすることにしました。研究にあたって、主に世界の発展途上国で問題視されている飢餓を、先進国である日本の子どもの飢餓として捉えた時のギャップに苦労しました。確かに日本でもご飯を食べられない子はいるのですが、日本の飢餓は関係性の飢餓が主な原因であり、世界で使われている「飢餓」とはニュアンスの違いがありました。そしてこのニュアンスの違いは日本語と英語の間にもありましたが、このプレゼンに関わってください先生方のアドバイスのおかげで、私たちの伝えなかった「飢餓」を上手く表現することができたと思います。



(3) 感想

今まで飢餓と言われても、私たちにとって曖昧で想像しにくい問題でした。SGHの活動を通して普段私たちが考えたこと無かった世界の飢餓、日本の飢餓について知ることができ、飢餓は身近にもあるということが分かりました。発表本番は緊張したけれど、練習を何回もしたおかげで、ステージ上でも自分たちが伝えなかった事を、聞き手に英語で自信をもって発表することが出来ました。また、パワーポイントを使って、人前で英語を使って発表するという機会はなかなかないので参加出来て良かったと思いました。

2年3組 Do you know Childhood Cancer? -Health and Welfare for Everyone- 「レモネードで子どもたちを助けよう」

(1) 発表内容

私たちのグループでは、「すべての人に健康と福祉を」というテーマの下で小児がんについて研究してきました。まず、小児がんをより詳しく知るために、中濃厚生病院を訪問しました。そこから、小児がんの治療法は進展しているものの、治療後は未だに社会に復帰するために様々な苦労があるという現状を知りました。そこで、小児がんの認知度を高める啓発活動として「アレックスレモネードスタンド」と呼ばれる募金活動を行いました。実際に集まった資金を寄付し、小児がんの子どもたちのために行動することができました。

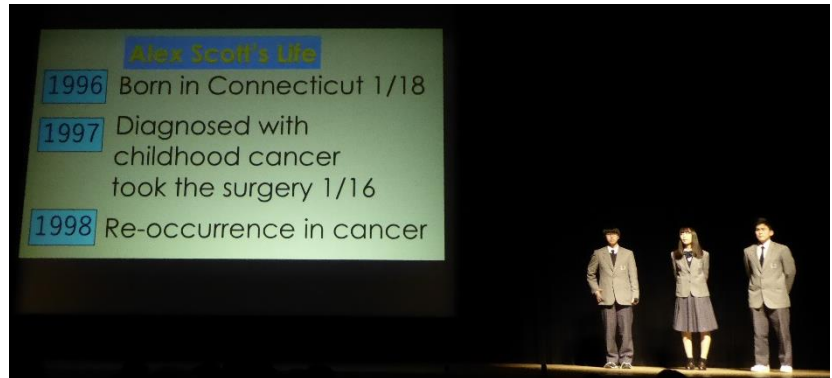
(2) 気づき・学んだこと

研究にあたって苦労したことは、伝えたい内容をどのようにして伝えるかということでした。「募金をお願いします」というのは簡単ですが、私たちが本当に伝えたいことはそれではありません。今回は啓発活動のために、掲示ポスターという形で説明にのぞみました。説明

するのは難しかったですが、多くの人に小児がんに関わる内容を知ってもらえたと思います。また、研究はレモネードスタンドを企画する意味をしっかりと考えて行いました。しかし、実際に募金活動をすることで、改めて自分が知ることの大切さ、伝えることの大切さ、知ってもらうことの大切さを学びました。この活動を通して、世界的な問題に目を向けることができたので良かったです。

(3) 感想

先日の1年間の活動の集大成となるSGHの発表を通して、SGHの活動がいかに有意義であるかということを感じました。自分達だけで課題を見つけ、それに向けて活動を起こす、本来であれば、大学生が授業の一環等で行うような活動を高校から行えるということは正に夢のような活動だと私は思います。授業では会得し難い課題解決能力、意外と学力以上にそういった力こそ、この先のAI化によって半分以上の職が無くなっていく近い将来に求められる力だと思います。時代の波に翻弄されぬ自己を形成していく為にも、今回のSGHでの軌跡を自らの糧にしていきたいです

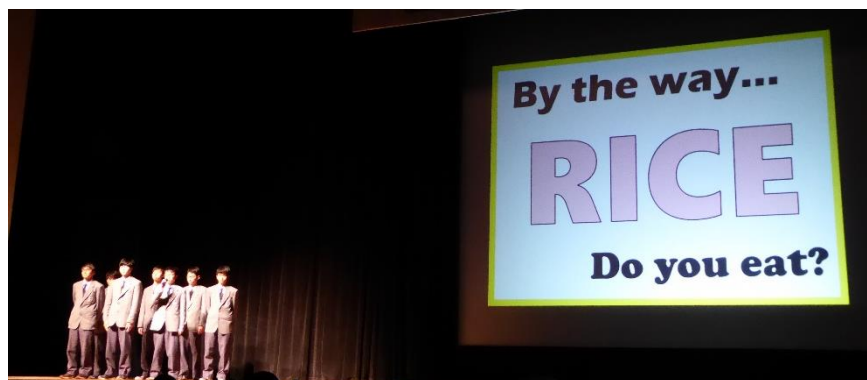


2年4組 To increase food self-sufficiency rate「食料自給率を高めるためには」

私たちは日本の食料自給率をあげるために、自分たちは何に取り組むべきかということ进行研究しました。現在日本は国内で消費する小麦のほぼすべてを海外からの輸入に頼っているということと、米の生産量が減少しているということから、小麦の変わりに米粉を使うことに着目し、米粉を利用するメリットやデメリットについて研究し、発表しました。

この研究にあたって苦労したことは、まずフィールドワークがうまくいかなかったことです。事前の計画不足のため自分たちの必要とする情報を得られず、発表内容の方針を立て直すことに時間を使ってしまい、いちばん大切な自分たちで設定した課題について話し合う時間があまり取れませんでした。パワーポイント資料作りなども含めて、短い期間に1からやり直す必要があったということが自分たちが一番苦労したことです。

このSGHの活動を通じて気づいたことは、何もない状態から課題を見つけそれに取り組むことがいかに難しいことかということです。しかし課題を発見し解決するという力は将来社会に出たとき最も必要とされるものであり、この高校生活でSGH活動に取り組み、その力を伸ばすことができよかったです。



2年5組 Let's save our lives! 「平成最後の災害対策」

災害大国、日本。 昨年も西日本を中心に豪雨が襲いかかり、岐阜県にも被害が及びました。私たちの班は、そんな状況の中、避難する際に一体何を持っていけばいいのか、どうすれば健康でいられるかに焦点を当てて研究を深めました。

今回の発表会を通して、私たちは様々な経験を積むことが出来ました。中でも特に印象に残っていることが、周りの協力の大切さです。私たちは『災害時の三種の神器』を軸に、全校発表に向けて研究を深めていました。しかし、「新聞紙を巻くことで本当に保温することが出来るのか」という疑問がふと思い浮かび、サーモグラフィーを使って温度の変化を調査することにしました。ところが、サーモグラフィーは借りるにも非常に高額で、どうするか悩んでいる時、SGH 講演会で話を聞いた「ピラミッドの研究のためにクラウドファンディング」を思い出し、クラスメートに協力を呼びかけってみました。その結果、目標金額の半分近く集まりました。この時、周りの人に頼ることの大切さや、支援してくれることのありがたさを学ぶことが出来ました。

今回の発表会では、私たちは災害に備えることを疎かにしないで欲しい。という想いを込めて発表に挑みました。今回の発表で述べた、『三種の神器』はNPO法人 プラスアーツさんの取り組み「イザ カエルキャラバン」を参考にしました。このように災害対策の講演やワークショップは全国各地だけでなく世界中で行われています。岐阜県でも昨年7月のように災害が起こる可能性はあります。ぜひとも自治体や学校などが主体となって地域全体での防災対策をして欲しいと研究を通して思いました。



2年6組 To make our life environment-friendly with cardboard compost 「段ボールコンポストで地球をエコに！」

私達の班は環境を保護する方法として、段ボールコンポストについて研究しました。段ボールコンポストとは微生物の力で生ゴミを堆肥化させる装置を段ボールの箱でつくったものです。これは、各家庭で簡単に生ゴミの量を減らすことができるものです。しかし、段ボールコンポストというものはあまり知られていません。私達はなぜ段ボールコンポストが知られていないのか、そしてどうすればその良さを広めることができるのかに



ついて考えました。

研究にあたって、まず、私達はフィールドワークを行いました。そこで、専門家の方とのディスカッション後、ダンボールコンポストについての講習会を受講しました。関市でこのような取り組みをしている事を初めて知ることができました。また、取り組みの課題や効果、自分の住んでいる町の現状が分かりました。そして、プレゼンテーションの準備の段階では、どうすればより相手に内容が伝わるかを学ぶことができました。

初めての英語の発表で、発音やアクセントに気をつけながら読むこと、暗記することは想像以上に大変でした。しかし本番では、緊張している中、全員が言葉にも詰まらず、ジェスチャーなどを使いながら楽しく発表することができてよかった。社会に出た時に英語で発表する場がある時にも、この経験を役立てるようにしたいです。

2年7組 Who has polluted the oceans? 「海の豊かさを守ろう！」

私達のグループは世界が抱える問題の中で海洋汚染に注目しました。海はなぜ汚れていく一方なのか、誰が汚しているのかという疑問を解明すべく木曾三川公園へフィールドワークに行きました。そこで海洋汚染の原因を知り、様々な対策を立てました。さらに、現在問題視されているマイクロプラスチックにも着目し、プラスチックゴミを減らすために何が出来るか考えました。その結果、「傘の傘取り器」の設置、「デポジット制度」の導入などといった案が出ました。

研究をしていく中で海洋汚染の現状を知り、すぐにでも解決しなければならない問題だと気づくことが出来ました。海洋生物が海に漂うゴミを飲み込んで死んでしまうことがあると学び、そのような事を今回の対策を実行することでなくしていけたらいいなと思いました。

発表を終えて、沢山の課題が次々と出てくる中、班員全員で協力し合い作り上げた今回のプレゼンが成功に終わり、本当に良かったなと思います。私達はこのプレゼンを通して、海洋汚染の原因は我々人間にあるということを皆さんに改めて自覚してもらいたいと思っています。

企業だけではなく私達個人にも出来ることは沢山あります。ポイ捨てをしない、飲み残しを流さない、洗剤を使い過ぎない。このようなちょっとした事を1つでも意識して行動していくことで、海洋汚染の解決に繋がると 생각합니다。1人1人が自分の行動に責任をもち、私達の大切な海を守っていきましょう。

